

### ③純資産変動計算書

資産から負債を差し引いた支払を終えたもの（純資産）の増減の内訳を表しています。



純資産変動計算書でなにがわかるの？

現世代の負担で純資産がどれだけ増減したかがわかります。

純資産の増減を要因別に整理しています。  
期首（20年度末）純資産残高

628億7000万円

当期変動額 △12億3000万円

- ・ 税金 補助金など…… 112億6000万円
- ・ 純行政コストへの支出……△75億円
- ・ 資産形成への支出など…△22億4000万円
- ・ 固定資産価値の変動…△27億5000万円

期末（2年度末）純資産残高

616億4000万円

### ②行政コスト計算書

1年間に福祉や教育などの行政サービスを提供するために経常的に係るコスト（費用）と、そのサービスを受けるための使用料・手数料などの収入を表しています。減価償却費などを含めたフルコストを把握することができます。

受益者負担比率 11.0%  
( $\text{＜経常収益÷総行政コスト＞} \times 100$ )

行政コスト計算書でなにがわかるの？

コストに対して受益者が負担した割合がわかります。



経常収益  
9億2000万円

行政サービスを利用する際の使用料や手数料です。税金は含まれません。

総行政コスト  
84億2000万円

経常的な行政サービスを提供するために係るコストです。  
人にかかるコスト 17億円  
(給与、人件費など)  
物にかかるコスト 26億3000万円  
(光熱水費、維持補修費、減価償却費など)  
業務に関連するコスト 4億5000万円  
(公債利息など)  
移転支出的なコスト 36億4000万円  
(児童手当などの社会保障給付費や団体への補助金など)

純行政コスト  
75億円

総行政コストから経常収益を差し引いたものです。使用料などでは賄えていない分を、税金や補助金などによって賄っていることになります。

### ④資金収支計算書

1年間の資金（現金）の流れを性質別に整理したものです。現金の出し入れを性質別に区分することで、どのような活動に現金を必要としているかを示しています。



資金収支計算書でなにがわかるの？

経常的な行政活動によって調達された資金を、収支の均衡を図りながら、資産の形成と借金の返済に充てているといえます。また財務的収支から新たな借入よりも起債（借金）の償還（返済）額が大きいことから、借金残高が減少していることもわかります。

期首（20年度末）資金残高 3億円

当期収支 △1億6000万円

基礎的財政収支  
20億2000万円

経常的収支と資本的収支の合計で、行政サービスが、町債などの借金に頼らないでできているかを表しています。

経常的収支 22億円  
毎年度経常的に必要な収入、支出

資本的収支 △1億8000万円  
公共施設の建設や基金への積立など  
資産形成に必要な収入、支出

+

財務的収支  
△21億8000万円

地方債の借入や元利償還金など、負債管理に係る収入、支出

期末（2年度末）資金残高  
1億4000万円

#### 人口一人当たりで見ると

- ・ 一人当たりの資産…… 819万円(資産÷人口)  
819万円分の財産をもっていることになります。
- ・ 一人当たりの負債…… 220万円(負債÷人口)  
220万円の借金があることになります。
- ・ 一人当たりの純資産…… 599万円(純資産÷人口)  
819万円分の財産のうち、599万円の支払が済んでいることになります。
- ・ 一人当たりの純行政コスト… 73万円(純行政コスト÷人口)  
使用料や手数料のほかに行政サービスを行うために73万円を負担していることになります。

※平成2年3月3日現在 人口10,298人で算出しています。

■今後は年度や他団体との比較などにより、町の特徴の把握や健全な財政運営に活用していきます。  
◆この財務4表は、町のすべての会計（一般会計・国民健康保険特別会計・老人保健特別会計・介護保険特別会計・後期高齢者医療特別会計・公共下水道事業特別会計・簡易下水道事業特別会計・水道事業会計）の合計で作成しています（単体会計ベース）。